

植生保護期に関わる計画の見直しについて

知床五湖地上遊歩道では、ヒグマの目撃が増加し、利用者への威嚇や接近事例も目立つなどヒグマの人馴れや危険事例の発生が顕在化している。また、増加する外国人利用者へのリスク提示と安全性の確保も懸念されている。安全性の観点からも地上遊歩道での遭遇機会を増加させない工夫が求められる。

今回植生保護期の運用について利用適正化計画に関わる部分を改めて整理し、次回のあり方協議会で提示する利用適正化計画改定案に反映させる。

■植生保護期の安全対策に関わる利用適正化計画の項目

○ 利用の調整を行う期間の区分 <利用適正化計画 3 (3) ②>

ポイント：ヒグマとの遭遇が増えている 8 月以降にヒグマ活動期を拡大するか否か
方針：個人で散策できる期間があることも知床五湖の魅力の一つ。植生保護期とヒグマ活動期の期間の変更はせず、植生保護期の安全対策を強化する。

○ 注意事項（利用ガイドライン）<利用適正化計画 5 (3)>

ポイント：レクチャーの内容
方針：現ガイドライン（＝レクチャー内容）の見直しを行う。ヒグマと遭遇しないための対策に加え、ヒグマと遭遇した後のより具体的な行動指針（退出経路等）にも重点を置くべきとの意見がある。

■利用適正化計画で定める項目以外の安全対策

○ レクチャー映像の汎用化

知床全体の来訪者が知っておくべきヒグマ対策を発信する必要性について過年度よりご意見いただいているところ。計画改定後に新たに作成するレクチャー映像は、知床全体向けのヒグマ対策及び五湖に特化した内容の二本立てとし、知床五湖フィールドハウス以外でも映像使用できるよう権利関係を整理する。また、利用者の使用言語が多様化している点にも留意する。

○ 地点標識の設置（A～S、α～γ）

ヒグマとの遭遇時の位置の特定をしやすいようにするために設置。日本語話者に限らずヒグマに遭遇した利用者からの聞き取りがスムーズになり、管理者を始めとする園地関係者や調査スタッフへの精度の高い情報共有に繋がる。

○ 見通しの悪い地点の笹刈り

ヒグマと利用者の遭遇を回避するため、見通しの悪い地点の笹刈りを強化する。春と秋の実施が効果的との意見があり、登録引率者も協力可能との申し出があった。